

平成 2 1 年度病害虫発生予報第 1 1 号

平成 2 2 年 1 月 2 9 日
愛 知 県

タマネギ白色疫病は、1月上旬に発生が多いほ場が見られましたが、現在は例年に比べやや少ない状況です。しかし、気温が高く降雨が続く場合は、短期間でまん延する恐れがありますので注意しましょう。

キャベツ菌核病は、罹病作物上に形成された菌核が次年度以降の伝染源となりますので、被害残さを集めて畑の外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病の発生がやや多い状態が続いています。今後、気温の上昇にともない、本病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの発生が増加し、本病の発生がさらに増えることが心配されます。タバココナジラミの発生状況に注意し、防除を徹底しましょう。また、トマト葉かび病の発生もやや多い状況です。今後、発生の増加が懸念されるので、発病葉は早めに取り除いて、適切に処分するようにしましょう。また、薬剤は葉裏までかかるよう、丁寧に散布しましょう。

果菜類の灰色かび病は、キュウリ、イチゴでやや多い発生となっています。施設内が多湿になると発生が広がるので、積極的に換気や送風を行うとともに、伝染源となる発病果や発病葉は速やかに取り除いて適切に処分しましょう。防除にあたっては、同一系統薬剤の連用を避けるようにしましょう。

ナスのミナミキイロアザミウマは、引き続き発生がやや多い状況です。ほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。

キュウリのミナミキイロアザミウマの発生は平年並ですが、一部のほ場でやや多くなっています。今後、気温の上昇とともに増加しやすくなりますので、ほ場での発生状況に注意しましょう。

イチゴのハダニ類は平年並の発生ですが、今後、気温が高くなると急激に増加するので注意しましょう。天敵を利用する場合はハダニ類初発時の放飼が効果的です。ハダニ類の密度が高い場合は農薬で密度を下げてから放飼しましょう。

野菜

・ 予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|--------------|-----------------|---------------|------------|-----------------------------------|--------|
| タマネギ | 白色疫病 | やや少ない | 全域 | 1月下旬の発生量はやや少ない | - |
| | べと病 | 平年並 | 全域 | 1月下旬現在、発生を確認していない(平年並) | ± |
| トマト (施設) | 葉かび病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間は少ない | + + |
| | 灰色かび病 | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量はやや少ない 2月の日照時間は少ない | - + |
| ナス (施設) | すすかび病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は少ない | ± + |
| | 灰色かび病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は少ない | ± + |
| | ミナミキイロ アザミウマ | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップによる誘殺数は平年並 | + ± |
| キュウリ (施設) | べと病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間は少ない | + + |
| | 灰色かび病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間は少ない | + + |
| | ミナミキイロ アザミウマ | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 粘着トラップによる誘殺数は平年並 | ± ± |
| イチゴ (施設) | うどんこ病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 2月の日照時間は少ない | ± + |
| | 灰色かび病 | やや多い | 全域 | 1月下旬の発生量はやや多い 2月の日照時間は少ない | + + |
| | ハダニ類 | 平年並 | 全域 | 1月下旬の発生量は平年並 | ± |

・防除対策

〔トマト（施設）・葉かび病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど湿度を上げないようにするとともに、肥料切れを起こさないよう管理に努めましょう。トリフミン水和剤、カンタスドライフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）・すすかび病〕

過剰なかん水を避けるなど必要以上に湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意しましょう。ダコニール1000、ポリオキシソルベトール水溶剤、トリフミン乳剤、アミスター20フロアブルなどを使用し、ローテーション防除を心がけましょう。

〔ナス（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って、湿度の高い状態が続かないよう努めましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ボトキラー水和剤、カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブル、フルピカフロアブルなどを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

ほ場での発生状況に注意し、プレオフロアブル、ハチハチ乳剤などで早めに防除しましょう。ミツバチ、マルハナバチを導入する施設では、影響日数をよく確認して薬剤を選びましょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど必要以上に湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意しましょう。リドミルMZ水和剤、ホライズンドライフロアブル、ジマンダイセンフロアブル、ランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って、湿度の高い状態が続かないよう努めましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ボトキラー水和剤、カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブルなどを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

〔イチゴ（施設）・うどんこ病〕

うどんこ病の未発生ほ場では、ボトキラー水和剤などにより予防散布をしましょう。発生を確認したほ場では、ラリー水和剤やアミスター20フロアブルなどの治療効果のある薬剤とベルコート水和剤など予防効果のある薬剤を組み合わせで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

ボトキラー水和剤、セイビアーフロアブル20、カンタスドライフロアブルなどを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台1月29日発表）

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多く、岐阜県山間部では平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並の確率50%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%でしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い：20% 平年並：50% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

予想される天候の特徴

当地方の向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わり、冬型の気圧配置は長続きしないでしょう。気圧の谷の影響で平年に比べ曇りや雨または雪の日が多く、岐阜県山間部では平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう（1月30日～2月26日の晴れ日数の平年値は約18日）。岐阜県山間部での降雪日数は平年並の見込みです。

「農薬使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬の紛失・盗難に注意し、気づいた場合は直ちに警察に連絡しましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については、
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。